

2-4 科学的研究をおこなう上での心構え

「経済学の分野における私の研究の道すじ」は、「長年にわたる良心的な研究の成果である」。

「経済学の分野における私の研究の道すじについての以上の略述は、ただ、私の見解がどのように評価されようとも、また支配階級の利己的な偏見とはどれほど一致しないとしても、それが長年にわたる良心的な研究の成果であることを示そうとするものにすぎない。しかし、科学への入り口には、地獄への入り口と同様に、つぎの要求がかかげられなければならない。

ここにいっさいの恐怖をすてねばならぬ

いっさいの怯懦はここで死なねばならぬ* 」*ダンテ『神曲』から

③-[318]P397 (経済学批判 (序言))